

「モミジの赤ちゃん (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今の時期、モミジの木は青々としているが、よく見ると、竹とんぼのようなものがたくさんついている。これはモミジの実(果実)である。その形状から「翼果(よくか)」と呼ばれている。



大学構内にも何本もモミジの樹があるが、特に学生会館の中庭(イタドリ広場)のものは、枝が地面すれすれに伸びている。背の低い子どもでも、目の高さで観察でき、手をのぼすこともできる。



どの子どもも、この翼果についても興味を持つ。「先生、このモミジの赤ちゃん、とっていいですか?」と聞く。採られては、モミジにとっては迷惑であるが、何万とついているので、1個や2個はいいだろう。



翼果をよく見ると、中央に2つの突起がある。この部分が種子に相当する。この果実はまだ未熟だが、熟して茶色になると、枝から離れて回転しながら種子を拡散させるわけだ。



「先生、ここにもモミジの赤ちゃんがあったよ。」これはすごい! 本当に「赤ちゃん」である。根から先端まで5cmしかない。間違いなく、この春に発芽して、やっと葉をつけたばかりだろう。見れば、モミジの樹の根元に、何百本も生えている。(つづく)